

トンネル被覆ブロッコリー有機栽培の生育と収量及び害虫侵入防止効果

福島県農業試験場相馬支場
平成17年度試験成績概要

1 部門名 野菜－ブロッコリー－作型・栽培型、病虫害防除、施設資材

分類コード 03-25-18233500

2 担当者 菅田充・中山秀貴・大和田正幸

3 要 旨

ブロッコリー有機栽培の方法としてトンネル被覆栽培を行い、生育・収量及び害虫の侵入防止効果について検討した。

(1)ブロッコリーの品種は「ピクセル」、播種は8月20日、定植は9月17日に行った。

被覆資材は不織布(商品名パオパオ90)及び目合1.0mmの防虫ネット(商品名サンサンネット)を使用した。株間30cm、畦間70cm(3.2株/㎡)、通路幅60cm、ベッド150cm、マルチ敷とした。施肥は認証付き有機質肥料の全量基肥(窒素成分2.0kg/a)とし病虫害防除及び中耕は行わなかった。対照の無被覆区は株間30cm、畦間70cm(4.8株/㎡)とし、中耕・追肥を2回行った。

(2)トンネル区の生育は、無被覆区に比し、草丈、葉幅、葉長が長く、収穫時期は早まった。トンネル区の全収量は無被覆区を下回ったが、平均頂花蕾重は重く、A品の収量は優った。1個体あたりの生育がトンネル区で良好だった理由は、疎植と追肥時の中耕による根傷みが回避されたこと、トンネル内の最高気温が高く生育促進効果の可能性があったためと考えられた。

(3)トンネル被覆により害虫侵入防止効果が認められた。無被覆区でアオムシとアブラムシ類が発生し、頂花蕾の被害株率が70%に達したが、トンネル区ではアオムシは被覆期間を通して確認されず、頂花蕾の被害も認められなかった。トンネル内にアブラムシ類は認められたが部分的な発生でその密度は低く、調査時の持ち込みによるものと考えられた。なお病害の発生は認められなかった。

4 その他の資料など